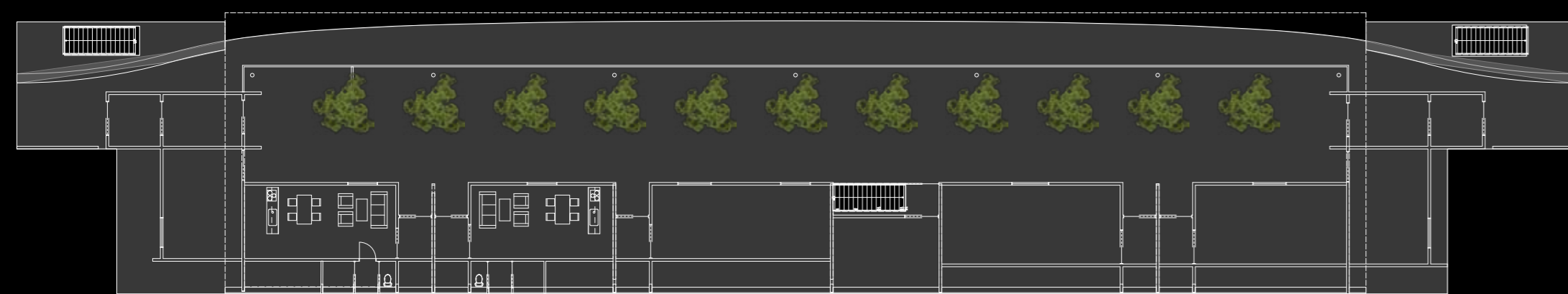
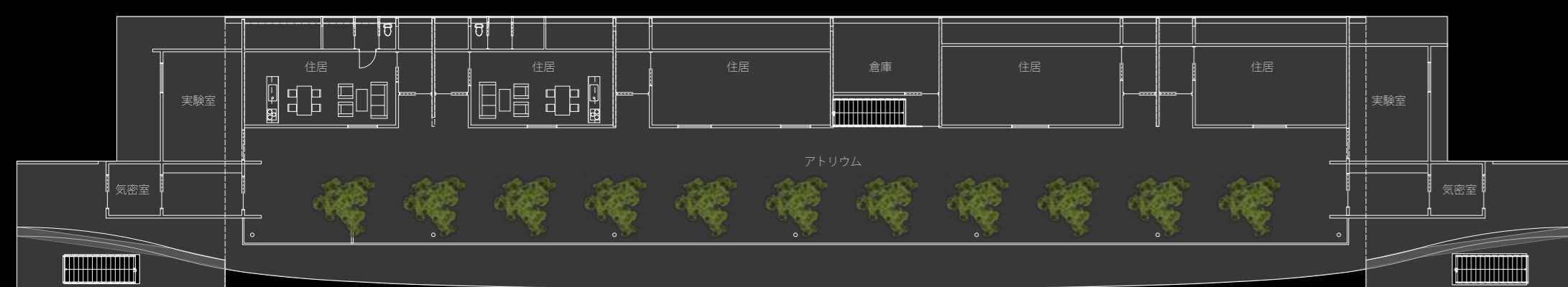


Lunar Green House

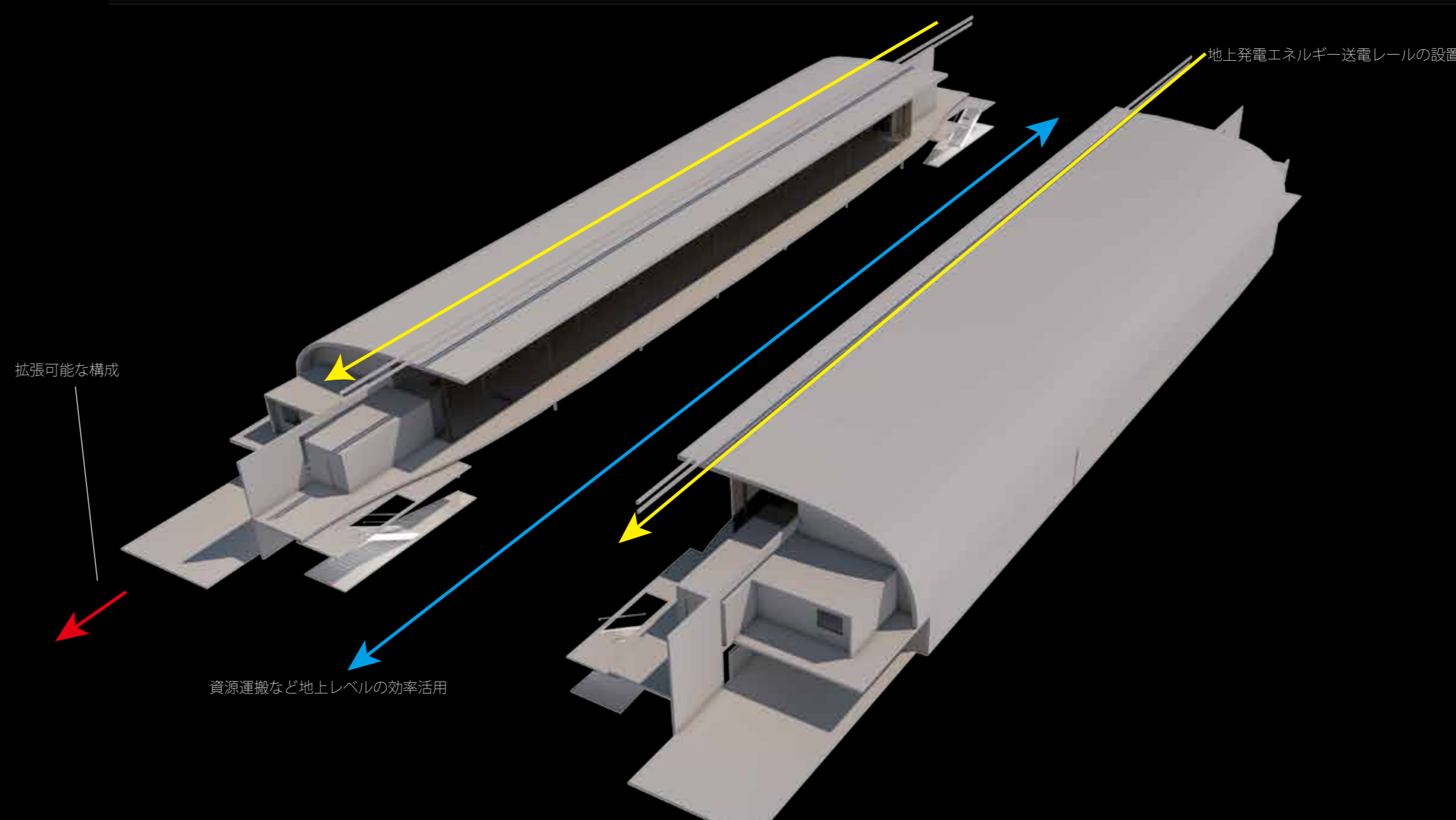
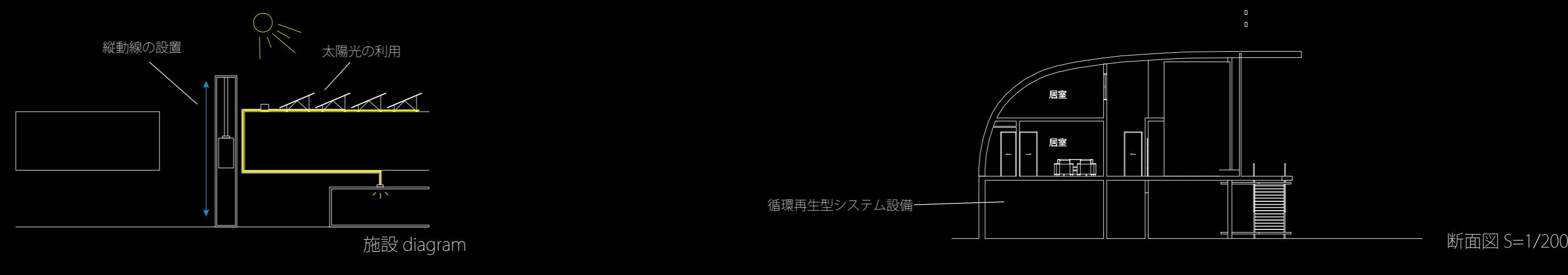
設計趣旨

新たに発見された月の洞窟に計画する 10 世帯の住居。地球を離れ過酷な環境の中で生活する場所として少しでも喜びのあるものとしたと考えた。植物を育てることは、閉鎖空間で暮らす人々の精神安定の役割を果たすだけでなく、光合成による酸素の生成、葉からの蒸散水の回収による水の浄化、食料生産など様々なメリットを生み出す。生命維持とともに精神維持にも貢献する植物を住居とともに洞窟に沿って設けられた大きなアトリウム空間に配置。植物育成のための照明は環境の違う月での生活リズム調整にも役立つとともに暗い洞窟を照らす灯りとなる。

排泄物のリサイクル施設や資源貯蔵庫、移動のための車両置き場は一階に配置している。駅のような構成をしている本計画はグラウンドレベルの効率的な利用を促進し、洞窟に沿ってさらなる拡張を可能としている。



2階居住フロア平面図 S=1/300



地球再建に向けて

小惑星の衝突により息絶え絶えとなった母なる大地、地球。月面の建設会社に務める二人の若者、カケルとユウトは地球再建へと立ち上がった。

21 世紀、最初の月への移住以降、地球からの恵みの植物を大切に扱ってきた月の人々。22 世紀、驚くことに月は地表こそ難しいものの緑の溢れる星になっていた。

「今度は俺たちが地球に恩返しするときかもな・・・」

荒れ果てた地球をまた緑溢れる豊かな大地に戻すため、もともとは地球のものであったたくさんの月植物を携えて、二人は小さな一歩を踏み出した。